

昭和五十三年二月招集

第一回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

| | | |
|-------------|-------|----|
| 日時 | | 一 |
| 場所 | | 一 |
| 出席議員 | | 一 |
| 欠席議員 | | 一 |
| 出席説明員 | | 一 |
| 出席事務局職員 | | 二 |
| 議事日程 | | 二 |
| 開會 | | 二 |
| 議長の報告 | | 二 |
| 議案の配付 | | 二 |
| 會議録署名議員の指名 | | 二 |
| 会期の決定 | | 二 |
| 提案理由の説明 | | 二 |
| 議案第一号 | | 三 |
| 議案第二号 | | 四 |
| 議案第一号 | | 八 |
| 日程の追加 | | 九 |
| 常任委員会委員の選任 | | 一〇 |
| 閉會 | | 一一 |
| 本日の會議に付した事件 | | 一一 |

一、昭和五十三年二月二十二日（水曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十九名

| | |
|-----------|-----------|
| 一番 吉田 勇治郎 | 二番 伊藤 幸太郎 |
| 三番 矢野 壽夫 | 四番 押元 稔 |
| 五番 黒川 平治 | 六番 鈴木 正義 |
| 七番 本間 昭二 | 八番 松下 正己 |
| 九番 鈴木 稔 | 〇番 流山 源次郎 |
| 一番 近藤 好雄 | 二番 栗原 一雄 |
| 三番 林 豊 | 四番 石井 輝久 |
| 五番 辻田 実 | 六番 安西 益男 |
| 七番 石井 武敏 | 八番 渡辺 軍治郎 |
| 九番 渡辺 昭夫 | 〇番 和田 一郎 |
| 二番 五十嵐 昇 | 三番 菊井 敏博 |
| 四番 西村 真次 | 五番 伊賀 多朗 |
| 六番 藤田 益治 | 七番 遠山 ヨネ子 |
| 八番 石井 正 | 九番 望月 照正 |
| 三〇番 山口 康 | |

一、欠席議員 一名

二一番 田中 禄郎

一、出席説明員

| | |
|--------------|------------|
| 市長 半沢 良一 | 助役 吉野 茂樹 |
| 収入 役 長谷川 広治 | 庶務課長 綱島 憲治 |
| 財政課長 山田 俊康 | 建設課長 飯田 治男 |
| 水道課長 兼 大嶋 重義 | 教育課長 安田 豊作 |
| 衛生課主幹 | |

教育委員会 汐崎 政光

一、出席事務局職員

事務局長 高尾 豊

書記 兵藤 恭一

書記 庄司 徹

一、議事日程

昭和五十三年二月二十二日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第一号 工事請負契約の締結について

日程第四 議案第二号 昭和五十二年度館山市水道事業特別会計

日程第五 議案第一号 館山市議会委員会条例の一部を改正する

補正予算(第三号) 館山市議会委員会条例の一部を改正する

開 午前十時五分開会

議長の報告

〇議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十九名、これより昭和五十三年第一回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

〇議長(吉田勇治郎君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので、御了承願います。

議案の配付

〇議長(吉田勇治郎君) 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

〇議長(吉田勇治郎君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

七番議員本間昭二君、二五番議員伊賀多朗君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

〇議長(吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき、議会運営協議会の意見は本日一日ということであります。

お諮りいたします。会期を一日と定めますことに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〇議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

提案理由の説明

〇議長(吉田勇治郎君) この際、本臨時会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

(市長半沢良一君登壇)

〇市長(半沢良一君) 本日ここに第一回臨時市議会を招集いたしました。

〇議長(吉田勇治郎君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので、御了承願います。

議案の配付

〇議長(吉田勇治郎君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がございましたので、御了承願います。

ましたところ、議員の皆様方におかれましては御多忙の中を御出席賜り、まことにありがとう存じます。

今回、急施を要する案件について御審議をお願いするわけでありましたが、まず市立那古小学校防音改築工事第一期内装工事に係る工事請負契約の締結についてであります。同校の躯体工事も完了し、引き続き第一期内装工事を実施するわけでありまして、去る二月十七日指名競争入札を実施しましたところ、落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札した者と話し合いをした結果、一億四百九十一万五千円をもって渡辺建設株式会社と隨意契約を締結しようとするものであります。

次に、館山市水道事業特別会計補正予算第三号についてであります。今回この主なものは収益的収支において第一次拡張事業の給水装置の受託工事費一千万円の減額、資本的収支については昭和五十年に千葉県地方土地開発公社に用地取得のために出資してありました二千四百四十万円がこのたび返還されますので、これをもとにしての配水管改良工事を追加実施しようとするためのものであります。

以上、上程する議案に対する説明を申し上げましたが、いずれも急施を要する案件であります。詳細につきましては関係課長等をして説明させていただきますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（吉田勇治郎） 以上であいま並びに説明を終わります。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第一号工事請負契約の締

結についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第一号 工事請負契約の締結について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

○庶務課長（綱島憲治君） 議案第一号につきまして御説明申し上げます。

前回の躯体工事と同様の指名によりまして今回行ったわけでございますが、二月十七日指名競争入札により行いましたが、三回入札を行いました。落札に至りませんが、最低契約者の渡辺建設株式会社と一億四百九十一万五千円で隨意により契約をしようとするものでございます。

なお、この工期は一応三月三十一日ということになっております。ただし、これは御案内かも知れませんが、大蔵省の防衛庁担当の主計官に事故がございまして、予算の内示が大幅に遅れましたので、このような遅れをみたわけでございますので、その工事の完成につきましては話し合いと申しますか、工期関係については一応の了解がついているわけでございます。

以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

質疑応答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑を願います。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　ただいまの説明で指名入札三回やったようですが、この指名入札は何軒ぐらいやったのか、それが一つ。

それから、一億四百九十一万五千円で随意契約しておりますが指名入札の最低価格は幾らか、その開きがどのくらいあるのか。

〇庶務課長（網島憲治君）　市内の業者四社、それから大手業者五者、合計九社でございます。

それから、入札価格の最低は一億五百四十万円でございます。

〇一八番（渡辺軍治郎君）　最低入札価格が一億五百四十万で幾らも違いはないわけですね。随意契約とは若干入札価格の低りが多いわけですが、このくらいの差でもって工事に差し支えはないのかどうか。

〇庶務課長（網島憲治君）　その差額は極めて——一億の金額の中で四十八万五千円ですか、計算すればこのようになるわけですが御案内のように防衛庁の工事の検査と申しますか、極めて厳正と申しますか、こまかいところまでチェックをいたすと申しますかそういうことでありますので、私どもの予定価格を若干下回っているわけでございますので、この程度の価格についての工事上の手抜き、あるいは懸念されるようなことはないであろう、こういうふうに私どもは信じております。

〇議長（吉田勇治郎君）　他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君）　お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。

採　　決

〇議長（吉田勇治郎君）　採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議　案　の　上　程

〇議長（吉田勇治郎君）　日程第四、議案第二号昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

議案第二号　昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正予算

（第三号）

〇議長（吉田勇治郎君）　朗読中でございますが、あと朗読を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。さよう決定いたしました。そのように取り計らわせていただきます。

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 説明を求めます。

○水道課長（大嶋重義君） 議案第二号昭和五十二年度館山市水道事業特別会計補正予算第三号について御説明いたします。

今回補正するものは三件でございます。

そのうち一件でございますが、第二条で収益的収入及び支出の補正がございます。

収入におきまして、一千万円の減額補正でございまして、水道事業収益を三億五千四百三十万円にしようとするものでございます。

それから、支出におきましては、千百七万九千円の減額補正でございまして、水道事業費用の計を三億二千三十九万一千円にしようとするものでございます。

次に、第二点は次のページでございまして、資本的収入及び支出の補正でございます。収入及び支出の既決予定額にそれぞれ二千四百四十万円を加えまして、収入、支出の合計額をそれぞれ十億九千二百三十八万九千円にしようとするものでございます。

第三点は四条に示してございます。流用禁止額の補正でございます。既決予定額に四十万七千円を加えまして、その計を一億五百五十万九千円にしようとするものでございます。

今回のこの補正の目的でございますが、これは千葉県地方開発公社にダム用地の買取委託をいたしました際条件としまして出資をしたわけでございますが、この公社への借金を年度内に返還することになりました。したがってこの出資金を年度内に返還されるということに相なりましたので、これを財源といたしまして市内の水事情の非常に悪い地域へ配管工事をいたしたいという

ことで、臨時に今回お願いするのが目的でございます。

それでは、内容について御説明いたします。六ページをお願いいたします。

今回の補正の中に人件費の補正がございます。損益勘定と資本勘定と両面にわたっておりますので、ここに掲げました給与明細書によりまして説明いたしたいと思っております。

一の総括表の左側の下の欄に比較という欄がございます。ここに損益勘定支弁職員、資本勘定支弁職員という欄がございますが、この欄で損益勘定で手当として二十万五千元、それから資本勘定におきましてやはり手当としまして二十万二千元、計四十万七千でございます。この内訳でございますが、これにつきましては下の欄に扶養手当以下五種類に分けて計上いたしてございまして御覧いただきたいと思っております。

なお、またこれの増減額の理由でございますが、これにつきましては八ページを開きいただきたいと思っております。ここに掲げてある説明欄にございますような理由でそれぞれ増額するものでございますので御了承いただきたいと思っております。

それでは、すぐ下のページにおきまして見積りも基礎から御説明いたします。

まず収益的支出の面から御説明いたします。今回水道事業費用におきまして千百七万九千円の減額補正でございますが、この内容でございますけれども、まず原水及び浄水費の中で動力費と薬品費につきましてここに掲げてありますような増額をお願いしております。この二つのものにつきましては、作名の浄水場におきまして使用するもので不足額を計上するわけでございます。この

不足額を生じた理由は、作名の浄水場は今回初めての運転でございまして、実績がなかったために当初の予算の見積もりが非常に立てにくかったということでございます。作名浄水場は昨年七月から運転開始いたしましたわけでございますが、電力費と薬品費にこの程度の不足を見込まれますので追加するものでございます。

次は配水及び給水費の中で、燃料費で四十万円の減額でございます。これは自動車のガソリン代が主なものでございますが、昨年の夏作名の水が通水できるようにしまして、従来夏場使っておりました給水車の出勤は全くないくらいに減ったということとまた水不足のときに従来のように各浄水場に車が走り回らなくなっもよくなったということからガソリン代が余るようになったわけであります。

それから、路面復旧費の五十九万円の減でございますが、これは漏水修理に伴いましての道路復旧工事が当初見積もったものよりも少なくて済むような状況になりましたので、この程度の減額をお願いするものでございます。

次に、受託工事費におきまして一千万円の減額でございます。これは給水装置工事の請負費の減額でございますが、これにつきましては、減額は加入者数が当初見込みよりも減ったために起きたということではございませんでして、加入者の負担を軽くするために減額するものでございます。

この理由でございますけれども、配水管を当初三百五十ミリから百ぐらいまで行なったわけでございますが、さらにこれを百七十五、五十まで配水管として下げて扱ったことと、もう一つは

配水管を実情調査によりましてさらに道路にこまかく配管したということが加入者の負担を軽くした理由でございます。

なお、現在までこの作名の関係で給水装置工事を行った戸数は四百二十五戸でございます。この予算に計上するときは四百戸を計上したわけでございます。

それから、支払い利息の関係でやはり百十三万二千円の減額を計上してございます。この関係でございますが、第一次拡張分の昭和五十一年度の企業債につきましてはこれは五十二年の三月に利息の額が決定するわけでございますけれども、このときの企業債が四億三千六百万円でございます。予算といましては当時予定利率を七・六五%で積算したわけでございます。これが実際には資金運用部の利息が七・五%、それから公営企業金融公庫の利息が七・七%で決定になりましたためにその差額と、それから貸付年月日の違いから差額を今回このように補正するものでございます。

次に、収益的収入でございますが、受託工事収益におきまして一千万円の減額でございます。これは先ほど説明しました受託工事の請負費の一千万円の減額と直接関連するものでございますので、収入におきまして一千万円を補正しようとするものでございます。したがって、受託工事収益は四千四百万円に相なるわけでございます。

次に、資本的支出の面から御説明いたします。水道拡張費の中では動きませんが、中での移動がございまして。

旅費におきまして二十五万円の減額でございます。これは拡張の補助事業が五十二年度完了の見通しがついたということと、そ

れから五十三年度に実施予定であった鷹ノ島線が五十二年度に繰り上げて行ふことになった等の關係で、防衛庁や千葉防衛施設事務所への出張が当初予定よりも少なくて済むという見込みになりましたので、これを補正するものでございます。

次に、委託料におきまして七十二万三千円の減額でございます。これは千葉県地方土地開発公社へダム用地の取得事業費を委託してあるわけでございますが、その事業費が三億六百八十八万五千五百十円になるわけでございますが、これに係る利息を利率が八・五%で支払っておったわけでございますが、この金利の引き下げによりまして七月一日から八%になったために、この差額を減額するものでございます。

それから、工事請負費で七十七万一千円の追加でございますが、これの主なものとは山萩地区への配管工事の追加でございます。これもさっき申し上げましたように、やはり加入者の負担を軽くしたいということから、山萩の用水池のところからかたまつた集落があります。そこへと——砂利道路でございますけれども、これも七十五ミリのものを百メートル程度配管したいということ。この不足分を計上したわけでございます。

次に、工事請負費で二千四百四十万円の追加でございます。これは配管の工事請負費でございます。この内容でございますが、これは中央水道の管内へ配管工事二件を予定しております。

一つは、南条の観音寺でございますが、あそこへ入る手前の道路があります。これから安布里へ至る市道でございますが、これが八百メートルでございます。これとこれに接続する支線への配管工事を行いたいというものでございます。

それから、いま一つは西ノ浜の大黒屋というお店がありますがあの角から沼の上のほうに集荷所がございます。これに至る市道の三百四十メートルと、これにやはり接続する支線に配管工事を行いたいというものでございます。

この二つの地域は、住宅が密集しておりまして、しかも水道がなくて水事情が非常に悪いところでございまして、住民が非常に困っております。幾たびとなく役所のほうにも要望やら陳情が来ておりますので、今回出資金の返還財源が得られましたので、年度内に布設を行つて住民の生活に資したいということをお願いするものでございます。

それから、前のページに戻っていただきます。この財源の収入でございますが、出資返還繰入金二千四百四十万でございます。これも先ほどから御説明したとおりでございますが、県の開発公社のほうからこの出資金が返還されますので、これを資本勘定に収入として繰り入れていきたいというものでございます。

以上で説明を終ります。
○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。
御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。
本案を委員会付託並びに討論を省略して採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

暫時休憩いたします。

午前十時二十三分 休 憩

午前十時二十六分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、発議案第一号館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

発議案第一号 館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について

議 案 の 内 容 説 明

○議長（吉田勇治郎君） 提出者の説明を求めます。

（二三番議員菊井敏博君登壇）

○二三番（菊井敏博君） 発議案第一号館山市議会委員会条例の一

部を改正する条例の制定について、提案理由を御説明申し上げます。

かねてより、議会運営につきましては、全員協議会、あるいは議会運営協議会において協議を重ね、さらには先進地への視察を実施する等、種々検討を進めてまいりました結果、本市議会の常任委員会については現行四委員会を三委員会とし、合わせて一部所管事項の改正を行うことが常任委員会の運用上妥当と考え、お手もとに配付のとおり五名の賛成者を得て本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。

暫時休憩いたします。

午前十時四十分 休 憩

午前十一時 零分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑に入ります。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託を省略したいと思ひます。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

（一八番議員渡辺軍治郎君登壇）

○一八番（渡辺軍治郎君） 私は館山市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論を行います。

この問題については、議会運営協議会や全員協議会で審議は尽くされてきていると思います。しかし、私はその中で一番問題にしたのは、地方自治法の百十五条にいう会議公開の原則が触れられていないということが一番問題だと思ひます。会議は公開とするということは、従来本会議といひますか、議会については会議は公開すること、常任委員会についての問題ははっきりと会議を公開すること、がうたわれていません。常任委員会では委員長の権限で傍聴を認めるということになっていますが、常任委員会といひてもこれは本会議のいわゆる延長といひるか、本会議の一部でありますから、当然会議は公開するのが当然だと私は思っております。

議会制民主主義を発展させるということからいけば、いままで館山市がやってきた従来の本会議中心主義の議会の運営の仕方が私は議会制民主主義に沿うもの、そういうふうに考えております。少なくとも、傍聴を認めると市民やなんかのそういう中で堂々とやはり審議が尽くされ、傍聴する人にも理解が十分できるというそういうことが常任委員会中心主義になりますと議会が形骸化される。委員長報告によってそれを議会が認めるというよりなこと、委員会では十分な審議が尽くされても一般の人にはわからな

い、ほかの議員にもわからないというよりな問題もありますので、私は会議公開の原則にのっとりて常任委員会も会議を公開する、そういうことを主張いたします。

そういう観点からみますと、常任委員会中心ということと四つの常任委員会を三つの常任委員会にするというのは、これは常任委員会の内容でありまして、原則的な、会議公開の原則をつらぬく議会制民主主義の発展に役立つというふうに私としては考えられませんので、この点について反対いたします。

以上です。

○議長（吉田勇治郎君） 他に賛成の討論ございませんか。——なお申し上げます。反対の討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） 採決に入ります。本案の採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

日 程 の 追 加

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

ただいま館山市議会委員会条例の一部改正が議決されましたので常任委員会委員の選任をいたしたいと思ひます。これを本日の

日程に追加し、直ちに議題といたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって常任委員会委員の選任を本日の日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

暫時休憩いたします。

午前十一時 三分 休憩

午後 一時四十七分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 午後のお席議員数二十七名、休憩前に引き続き会議を開きます。

常任委員会委員の選任

○議長(吉田勇治郎君) 常任委員会委員選任についてを議題といたします。

これより各常任委員会委員を本市議会委員会条例第四条の規定により選任いたします。

各常任委員会委員の氏名を書記をして朗読いたさせます。

○書記(石井敏夫君) 朗読いたします。

総務委員会委員 吉田勇治郎さん、伊藤幸太郎さん、松下正己さん、栗原一雄さん、辻田 実さん、渡

辺昭夫さん、田中禄郎さん、菊井敏博さん、西村真次さん、藤田益治さん。

文教民生委員会委員

矢戸寿夫さん、鈴木正義さん、本間昭二さん、近藤好雄さん、石井武敏さん、渡辺軍

建設経済委員会委員

治郎さん、五十嵐 昇さん、伊賀多朗さん、遠山ヨネ子さん、石井 正さん、押元 稔さん、黒川平治さん、鈴木 稔さん、流山源次郎さん、林 豊さん、石井輝久さん、安西益男さん、和田一郎さん、望月照正さん、山口 康さん。

以上でございます。

○議長(吉田勇治郎君) ただいま朗読いたしましたとおり各常任委員会委員に選任いたします。これに御異議ございませんか。

○一五番(辻田 実君) 手続上の問題なんですけれども、恒例でございますと、議長のほうから各常任委員会にそれぞれ辞表が出されましたのでこれを認めることに御異議ございませんかと了承をとりまして、その後改めて任命というものが行われてきておるようになりますが、先の、午前中の議会の中において四常任委員会の定数の改正を行いましたけれども、それによって常任委員会の辞任なり、そういう手続きがとられてないので、このまま議事の進行をしますと、前任者を解任しないままに任期は自治法によりますと通っておりますから、二重指名になる危険性はないかということについて懸念があるわけでございますけれども、議事手続き上そういった面については二重の意味にならないかどうかについてお伺いしたいと思います。

○議会事務局局長(高尾 豊君) 委員会条例の一部改正が先ほど通過いたしました。そして、うちのほうでもってその議案を庶務課に送付いたしました。市長がそれに基づきまして公布の手続きをとりました。あの条例は公布の日から施行するということになり

ますので、前条例はそれによって消滅、新しい条例が公布されたときから適用されるということをごいまして、いままでの委員さんはそれによって消滅、今回新しくこの条例に基づいて選任するということでもってお願いしたわけでございます。

よろしくお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

この際、同条例第五条の規定により各常任委員会において互選されました正副委員長を報告いたします。

総務委員会委員長 栗原一雄君、同副委員長 松下正己君。

文教民生委員会委員長 近藤好雄君、同副委員長 矢野寿夫君。

建設経済委員会委員長 流山源次郎君、同副委員長 鈴木 稔君。

以上のとおり報告いたします。

閉

会 午後一時五十二分閉会

○議長（吉田勇治郎君） 以上で本臨時会に付議されました案件は

議了されました。よってこれにて第一回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第一号及び議案第二号

一、発議案第一号

一、日程追加・常任委員会委員の選任

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する

館山市議会議長 吉 田 勇 治 郎

館山市議会議員 本 間 昭 二

館山市議会議員 伊 賀 多 朗

